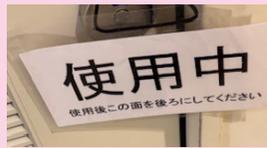


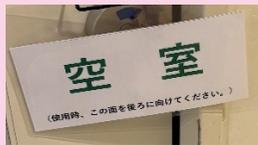


●色への一票

No.472 2025.12.11 で「ひと目で理解したい時こそ色」と題し、病院内の多目的トイレのプレートの色についてのその後です。1月末に行った際にもやっぱり変わってないかと、諦めと残念な気持ちでトイレの前を通ると、えっ!? わわわ! 変わってる~♡なんと、めでたく変更して頂きました! 万歳!! ちなみに変更前がこちら↓



そして変更後がこちら↓



最初、青(黒)と赤ではなく緑と赤なのに多少の違和感がありましたが、数秒後この病院のコーポレートカラー(緑)と同じことに気付き納得し御礼を投函して帰りました。数日前、雪の中の投票で日本は赤く染まりました。一票、一人の意見を大切に汲み取って貰える政治であって欲しいと切に願います。(幹事 水野智子)

●樋口一葉「たけくらべ」の色名

「たけくらべ」から「龍華寺の 大和尚の色つや好きこと 櫻色にあらず 緋桃の花でもなし 銅色の照り」、「単衣は水色友仙の涼しげに」、「紅入り友仙の雨にぬれて」、「色白の首筋に紺の腹がけ」などと色名が抽出できる。

女性の着物・装身具・持ち物などは、紅(4)、赤(2)、白、黒、白茶、柿色、水色、紺、紫、藤色の10色名を抽出。

男性の着物・装身具・持ち物などは、黒(2)、墨、鼠、赤、柿色、かわ色、水浅黄、紺、紫などの9色名。

人物の肌の色・髪・鬚・化粧などは赤(9)、白(3)、黒(2)、櫻色、緋桃、銅色、青の7色名。

自然を描写している場合は、赤(2)、黒、青の3色名。

その他では、黒(7)、青(2)、紫(2)、白、鼠、口なし染め、紺の7色名が抽出された。

用例は400字詰め原稿用紙1.3枚に一用例が登場する。樋口一葉の「十三夜」や「にごりえ」に比較すると、色名の数、用例の数共に「たけくらべ」は多い。

用例数の男女比は9対13と女性が稍多く、色名の数も9対10と女性が稍多い。

全ての用例が、魅力的で、参考にしていきたい表現と思われる。(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 112ーし

視神経交差：ししんけいこうさ。視神経が大腦に入って交差していること。右目の鼻側半分からきた神経繊維は左大腦へ、左目のものは右大腦に進む。耳側半分は交差しない。

紫雪：しせつ。石川県に、江戸時代から伝承される家庭薬。内服用の練り薬で、熱病・傷寒・酒毒・吐血・食滞などのときに用いる。

紫雪丹。

視線：目の向き。目で見ている方向、目の中心と、見ている対象とを結ぶ線。視軸。

視線速度：天体が観測者に近づき、または遠ざかる動きのときの速度。ドップラー効果によって認められる。

紫髯緑眼：しぜんりょくがん。赤みがかったほおひげと青い目。昔、中国で、西方の異民族の容貌をいった語。

紫蘇：しそ。シソ科の一年草。茎は四角柱、葉は広卵形で暗紫色。

地染め：じぞめ。捺染で、模様以外の地の部分を染めること。その土地で染めた染め物。

時代色：その時代特有の風潮や傾向。

下絵の具：したえのぐ。陶磁器の下絵付けに使う絵の具。硼酸・硼砂・金属化合物などを混ぜ、上絵の具より高熱に耐える。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)